



●新年のご挨拶

名古屋市工業研究所

所長 久米 道之

財団法人名古屋市工業技術振興協会の皆様方、新年明けましておめでとうございます。昨年は創立25周年記念式典を盛大に挙行され、四半世紀に及ぶ活動が地域にしっかりと根ざしたものであること、そして明日に向かって羽ばたく底力があることを見事に証明されました。同時にこのことはものづくりに関わる当地域の中小企業が健在であることの証でもあり、名古屋が元気であると言われる所以でもあります。大変喜ばしいことですが、こうした状況を持続するためには技術力向上への努力が不可欠であることは言うまでもありません。常に二歩、一歩、いや半歩先に行く、あるいは他企業と差別化を図ることが何よりも重要です。

技術のひろばの前号（25周年記念号）において、名工振協会の松尾隆徳会長がごあいさつの中で、「これからの企業にとって必要なものは比較優位性のある技術であり」「自立し、継続し、絶えず皮がむけつづける中小企業集団が産業界をささえる」「この企業ニーズに応えることに市工研・名工振の役割がある」と述べておられますが、正にその通りであり、私の心持ちと寸分の違いもありません。

先進国の中でもまれな資源小国日本が生きる道はこれからもものづくりによる工業製品であることに変わりはありません。国際競争力のある工業製品の真髄は高度な技術力に支えられた品質であり、生産プロセスの管理能力であり、何よりも機械・装置を使いこなす技能に秀でた人材です。否応なく

産業のグローバル化という荒波の中に投げ出された中小企業は自立して生き抜かなければなりません。これまで以上に技術開発の重要性が高まったと私は考えています。

工業研究所は今、こうした中小企業の置かれている状況に鑑みて先に述べられた役割をどのように果たして行けばよいかという自問を経て、一つの方向に向かおうとしています。それは工業研究所がこれまでに蓄積してきた技術得意技術としてまとめ、さらにそれを、当地域に厚く集積し、産業を支えているものづくり基盤技術との対応を明確にしながらコア技術として整理・集約し、このコア技術をベースに中小企業の技術開発支援を総合的に実施していこうというものです。昨年度名古屋市内及びその近郊に事業所を有する企業144社について訪問等による企業調査を行った結果、様々な技術課題を有し、その解決支援を工業研究所に期待する姿が鮮明になりました。工業研究所はこうした期待に応え、特にものづくりの原点は現場であることを肝に銘じて、職員が直接中小企業皆様方の会社に出向いてお話を伺い、技術課題解決、明日の技術開発にコア技術を駆使して協働により取り組んでまいります。

この一年、名工振と工業研究所の連携がスムーズに行われ、名古屋地域の中小企業に対する技術支援の成果が目に見える形で現れることを期待します。挑戦し、前進するプラス志向で頑張りましょう。